

投稿ください。市民の皆さんの意見交換の場がこの市民談話室です。テーマは自由です。あなたの意見を気軽に寄せください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、大字白根一二三五 白根市役所企画課広報広聴係です。

はだし保育に思う

風邪一つひかない健康な体に

五十嵐恵美子さん (西酒屋・主婦・31歳)

長男が保育園に入園したころ、自家中毒症とぜんそくで医者通いの毎日でした。たんばく質と脂肪分を取ることを控えさせられるため、いつの間にか「これ、たんばく質と脂肪入ってる?」と食べる前に必ず聞くようになってしまいました。寒い日の朝などは「もう一枚よけいに着せなさい」と言う母

ましたけれど、先生がたも実施するに当たり、かなりの強い決断と勇気が必要であったことと、思いいます。本当にありがとうございました。私はまた保育園だ

茨曾根音頭の完成に寄せて

地区民こぞって歌い踊れる日を

玉木久江さん (新村・農業・45歳)

茨曾根地区では、このたび、茨曾根音頭を作ろうということになりました。歌詞は地区民に応募したものの中から選び、曲は茨曾根小学校の先生から作曲していただき、茨曾根のイメージにぴったりの、

けでなく、小学校もはだしで、子供たちが健康な学校生活を送ることができたらいいなと思っています。

すばらしい音頭が出来ました。この陰には、作成に携われてきたかたがたの、大変なご苦労があったことと思います。

今、私たちは、この音頭を地区運動会の中で披露するということですが、一生懸命に練習していますが、私たちだけでなく、地区民こぞって歌い踊れる日を待ち遠しく思っています。私は何気なく見過ごしてきた、のどかなふるさとの美しさを、この音頭を通して再発見させられました。そして、この音頭が、みんなの生活に潤いを与え、人生の糧になるように望み、永久に残るものとして大切にしていきたいと思っています。



なわとび(白根保育園で)市内の各保育園で「はだし保育」が行われています

子供たちの成長と農作業の始まりとともに

細貝裕作さん (戸頭・農業・35歳)

今年は雪解けが遅く、春が本当に待ち遠しく思われました。ようやく桜の花が咲き始め、きれいな姿を見ることができるとかと思えば、苗作りの大切な時期となり、思うようにできない状態です。

変わった田園風景

白根市を見つめて

土田奥一さん (下等巻・農業・66歳)

そこで、長男が中学生になった記念樹というわけではないですが、桜の苗木を手に入れ、庭

白根市民のシンボル、市庁舎が建てられてから十三年の歳月

が流れました。十年一昔と言いますが、あの

これなら家にも花見(木当は、花よりだんご)ができます。今年には葉桜でしかなかったけれど、この先、何年も長い冬を乗り越えて、子供たちの成長と農作業の始まりとともに、春を楽しませてほしいものです。

ころ、田んぼのまん中に、このようすばらしい庁舎が出来て、私たちも大変喜んだものです。私はこの庁舎を見るたびに、白根市は、ここを拠点とし、農・工・商業が一体となった市政を展開し、ここまで発展してきたものと思います。今、情景を思い出すと、本当に今昔の感がします。小須戸線に位置する和泉工業団地、カヤぶき屋根から一変したカラフルな住宅、みんな豊かさに満ちあふれた理想郷のようです。私は、この変わった田園風景を眺め、あらためて市の姿を見つめることができました。



テニスの好きなスポーツ・ギャル



高桑由美さん (桜町・22歳・歯科助手)

今いちばんやりたいことといったら、友達と沖繩へ行ってみたいですね。私、あの沖繩のきれいな海が好きなんです。真っ青な空の下、透き通った海の上を、何も考えずに、ただポッカリと浮いていたいなあ、いつも思っています。

早く実現したいですね。趣味はスポーツ。特にテニスが一番です。今、新潟で週一回、ナイターテニスを楽しんでいます。白根市にも早くこんな施設ができればいいのに……。そうすれば、スポーツを中心に青年の活動が盛んになって、活気ある白根市になるんじゃないかと思っています。エッ 結婚? ウーン やっぱ一生の問題だから、難しいですね。あんまり考えたことないけど、まだまだ結婚したくないっていうのが正直なところですよ。

俳句

咲かぬ間に疲れし哀れ白百合の

渡辺 勤

投稿句できて暫しの朝寝かな

小林キミイ

雪溪を一人で渡る日本晴

大旅 豊治

田植終わりねえさんかむりに干物す

玉木 長吉

川柳

平穏な灯を突風が消していく

岡村 清

髭のある生徒校舎の風を切る

長井 徳市

昼飯は抜きよと母も日曜日

今井 タエ

あやす子の重さにママの手がしびれ

佐藤 ヨキ

甘言につられ虎の子吸い取られ

野内熊太郎

愛情の傘で迎える終電車

田村 恒夫

足音に犬は尻尾でお出迎え

後藤マサノ

人生の海峡いくつかに賭け

大井 義雄

神経のにぶい女房でよく太り

佐藤トミノ

安全な道を辿った花いじり

竹石 甚五

相乗りのホッペに風が心地よい

織田 セツ

ある時はサムライにもなる女の目

山岡 フミ

びっくり箱ルートは天の岩戸かも

吉川 彰

あれほどの名士も一目妻に置く

今井 七郎

当選のバラ大臣の名に付かず

高橋祐四雄

宅配を追って招かぬ姑が来る

中村 尚治

家紋などいらぬピエロの厚化粧

吉川 末吉

唐突に加速度がつく女坂

西条 ムラ

ハンドルに魔性が入る隙がある

本間 吾郎

短歌

名前のみ知りて別れし人なれば

再び逢える望みはあらじ

金子ヨシノ

雨降れと日々空を仰ぎつつ

渇きし畑に水を注ぎぬ

中村 京